



北海道公立大学法人
札幌医科大学
Sapporo Medical University

札幌医科大学学術機関リポジトリ *ikor*

SAPPORO MEDICAL UNIVERSITY INFORMATION AND KNOWLEDGE REPOSITORY

Title	国際交流医学事業によるアルバータ大学との研究交流を経験して
Author(s)	中島, そのみ
Citation	札幌保健科学雑誌, 第 1 号:119-122
Issue Date	2012 年
DOI	10.15114/sjhs.1.119
Doc URL	http://ir.cc.sapmed.ac.jp/dspace/handle/123456789/5395
Type	Technical Report
Additional Information	
File Information	n2186621X1119.pdf

- コンテンツの著作権は、執筆者、出版社等が有します。
- 利用については、著作権法に規定されている私的使用や引用等の範囲内で行ってください。
- 著作権法に規定されている私的使用や引用等の範囲を越える利用を行う場合には、著作権者の許諾を得てください。

報 告

国際交流医学事業によるアルバータ大学との研究交流を経験して

中島そのみ

札幌医科大学保健医療学部作業療法学科

札幌医科大学は海外各国の大学と協定を締結し積極的に学術交流を進めている。2011年3月にはアルバータ大学と国際交流協定 (MOU) の締結を行った。今回、約3週間、国際交流医学事業によるアルバータ大学との研究交流を経験した。本稿では、アルバータ大学リハビリテーション医学部作業療法学科との共同研究を進めることができたとともに、小児 (発達障害) 分野の作業療法における有益な情報を収集できたので、その概要を報告する。

キーワード：国際交流医学事業、アルバータ大学、研究交流、札幌医科大学

The experience of the research exchange with University of Alberta under International Medical Exchange

Sonomi NAKAJIMA

Department of Occupational Therapy, School of Health Sciences, Sapporo Medical University

Sapporo Medical University has concluded agreements with some overseas universities and has been actively promoting mutual exchange programs with these universities. In March 2011, Sapporo Medical University signed a memorandum of understanding (MOU) with the University of Alberta to foster international collaboration and exchange of expertise in research education. At this point, I underwent an approximately 3-week-long research exchange program with the University of Alberta, i.e., the International Medical Exchange. I was involved in collaborative research with the personnel at the Faculty of Rehabilitation Medicine, Department of Occupational Therapy, University of Alberta, and gained useful information about occupational therapy for children. This paper provides a summary of this experience.

Key words : International Medical Exchange

University of Alberta

Research exchange

Sapporo Medical University

Sapporo J. Health Sci. 1:119-122(2012)

1. はじめに

札幌医科大学は1983年よりカナダ・アルバータ州エドモントン市にあるアルバータ大学医学部・歯学部と交流協定を締結し¹⁾、1999年からは語学研修を目的としたアルバータ大学への学生派遣を実施しており²⁾、長年にわたり交流を行っている。2011年3月にはアルバータ大学リハビリテーション医学部とも国際交流協定 (MOU) の締結を行い、保健医療学部を中心とした交流が始まった。今回、2011年8月末からの約3週間、国際医学交流事業により、アルバータ大学リハビリテーション医学部作業療法学科との研究交流を経験した。本交流研究では、次の2点を主な目的とした。一点は、派遣先における発達障害児に対する作業療法の評価・治療の現状を視察し情報収集を行うこと。二点は、著者らが開発した運筆 (Handwriting) 評価機器を用いた発達障害児および健常児・者に対するHandwriting評価に関して、アルバータ大学リハビリテーション医学部作業療法学科との共同研究の打ち合わせを行い、可能であればプレ調査を実施することであった。以下に、アルバータ大学リハビリテーション医学部作業療法学科の概要ならびに本交流研究の成果を報告する。

2. アルバータ大学リハビリテーション医学部作業療法学科について

アルバータ大学リハビリテーション医学部作業療法学科はおよそ80年前に建築されたCorbett Hallとよばれるレンガで作られた歴史的な建物の中にある (写真1)。



写真1 Corbett Hall前にて

写真左より、リハビリテーション医学部長、作業療法学科長、副学部長、著者、本学医療人育成センター大柳准教授

アルバータ大学での作業療法教育は1960年に開始され、1986年には大学院が設置され、今日、カナダにおける作業療法のトップクラスの大学の1つとして位置づけられている。現在、本邦で行われているような学部教育における作

業療法学士を得るための教育システムはなく、作業療法に関心のある学生は大学院修士課程で臨床教育と研究教育を学び、研究分野に進学する場合は博士課程に進むことになる。よって、入学には学士であること、獲得単位や学業成績評点など一定の条件を満たしている必要がある³⁾。私が訪問した時期はちょうど新学期開始時期であり、上級生が企画した新入生歓迎会が行われ、それに同席させていただいた。今年の新入生はおよそ100名とのことであった (写真2)。



写真2 Corbett Hall前で行われた新入生歓迎会の様子

3. 作業療法学科の授業への参加

派遣中に小児作業療法と作業療法評価法の授業を聴講させていただいた。教室はかなり傾斜の強い階段教室で、講義をしている教員の頭上に大きくパワーポイントが映し出されていた。いずれの授業においても教員による講義だけでなく、実際に障害を持つ児の保護者や患者にゲストとして授業に来ていただき、学生が彼らとのやり取りをおして学ぶスタイルとなっていた。授業中学生は、教員の問いに積極的に答え、ゲストへの質問も積極的に行い、グループ学習においてディスカッションも活発に行っていた (写真3)。



写真3 授業の様子

4. 小児（発達障害）作業療法に関する情報収集

Alberta Children's Hospitalの見学

エドモントン市のとなりに位置するカルガリー市にある、州立の子ども病院であるAlberta Children's Hospitalを視察した。この病院は非常に大きく、カラフルな建物で、外には遊具などが設置されていた（写真4）。見学した日が連



写真4 Alberta Children's Hospital

休前の週末だったため子どもたちがほとんどおらず、セラピーの様子は見学することが出来なかった。ここでは子どもたちがリハビリを行うための施設設備、道具、スタッフ数だけでなく、テレヘルスシステムも整っていた。テレヘルスはテレビ会議システムなどを用いて、物理的に離れたところで生活する人々と医療などに関する様々な情報やサービスを共有することであり、遠隔医療の意味も含んでいる。この病院のスタッフは、このシステムを用い遠隔地の医療関係者と治療や支援に関する話し合いを行ったり、患者や家族、学校教師などの情報交換や学習会にも使用しており、有効に活用されていることがわかった（写真5）。ま



写真5 Alberta Children's Hospital 子ども用ADL室

た、病院から少し離れたところにホスピスのみを行う2階建ての施設があり、1階は食堂、テレビを見るゲームを行う部屋、視覚刺激や聴覚刺激、嗅覚刺激などの多重感覚刺激環境を活用して対象者のリラクゼーションや興味を促すためのスノーズレン室があり、2階は個人部屋となっていた（写真6）。

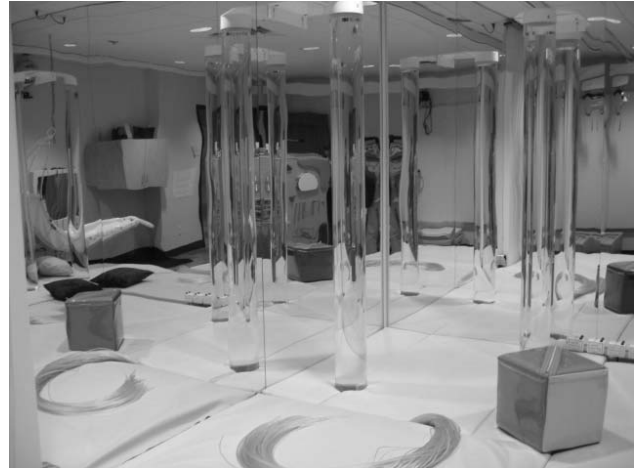


写真6 Alberta Children's Hospital
ホスピス内のスノーズレン室

Glenrose Rehabilitation Hospitalでの見学実習

Glenrose Rehabilitation Hospitalはエドモントン市にある大きなリハビリテーション病院で、作業療法士の人数は全体で約90名、小児部門は約30名が配置されているとのことであった（写真7）。



写真7 Glenrose Rehabilitation Hospital

私は小児作業療法部門で2日間、School Rehabilitation Program（学校リハビリテーションプログラム）と Feeding & Swallowing Service（摂食・嚥下サービス）において見学実習を行ってきた。School Rehabilitation Programでは幼稚園の見学を行った。このプログラムでは発達障害児やその疑いのある児が週5日9:00～11:30の時間帯で通い、5ヶ月間のプログラムを実施した後、地域の（一般の）幼稚園に

戻るシステムとなっていた。見学したプログラムでは子ども4名に対し教員1名とサポート2名で活動が実施されていた。作業療法士はそこで介入前に子どもたちの詳細な評価を担当しているとのことであった。Feeding & Swallowing Serviceでは、2ケースの実際の介入現場を観察室から見学させていただいた(写真8)。このサービスでは、作業療



写真8 マジックミラーのある観察室から
Feeding & Swallowing Serviceを見学

法士、栄養士、言語療法士がチームとなって児の摂食・嚥下の問題にアプローチしていた。1ケースに対し3時間ほどの間に、事前情報を基にスタッフの打ち合わせ、ケースの評価(インタビュー、実際に家庭で食べているものを持参してもらい、その場で食べてもらい、その時の児と保護者の様子の観察、必要であれば嚥下造影検査の実施)、そしてそれらの結果から検査結果の報告と保護者へアドバイスを提供していた。

両プログラムとも、作業療法士は主に評価の部分で重要な役割を果たしており、直接児への訓練や指導を行う機会は少ないとのことであった。また、一人の児に対し他職種とチームになってかかわる体制となっており、作業療法士はチームを取りまとめていく中心的な役割を果たしていた。



写真9 カナダの健常児に対する運筆評価機器を用いた
プレ調査

5. Handwriting評価に関する共同研究について

著者らが開発した運筆評価機器を用いた発達障害児および健常児・者に対する運筆評価に関してアルバータ大学との共同研究を実施するにあたり、作業療法学科ならびに情報科学科の教職員の方々にご協力いただき、教職員のお子さん5歳~13歳の10名を被験者にプレテストとしてのHandwriting評価を実施させていただいた。これにより、本邦の子どもたちとは違った描画遂行中の特徴を観察することができた。また、データ収集現場を見学していた教員や、本機器を実際に体験していただいた教員から、本評価機器に対する改善点などのコメントをいただいた。今回のデータ収集から、今後の本格的なデータ収集に向けた検討を両大学で実施していくことになった。

6. 謝 辞

今回の研究交流において大変お世話になりましたアルバータ大学リハビリテーション医学部作業療法科学科長LiLi先生、作業療法学科教授Miyazaki先生に感謝いたします。また、Handwritingのプレテストなどご協力くださいました本学医療人育成センター教養教育部門の大柳俊夫先生、アルバータ大学リハビリテーション医学部作業療法学科教職員の方々、病院見学・実習でお世話になりましたAlberta Children HospitalのKim OTR, Glenrose Rehabilitation HospitalのKathryn OTR, Laurel OTR, Kerry OTRに感謝いたします。

7. 文 献

- 1) 北海道：北海道の国際交流の状況(姉妹都市等). カナダ・アルバータ州との交流年表. <2011.10.24アクセス>
http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/tsk/Alberta_nenpyou.pdf
- 2) 札幌医科大学：国際交流Newsletter. No.3, Summer 1999. <2011.10.24アクセス>
<http://web.sapmed.ac.jp/kokusai/news2-11/News-natu.html>
- 3) アルバータ大学：リハビリテーション医学部作業療法学科ホームページ. <2011.10.24アクセス>
<http://www.uofaweb.ualberta.ca/ot/>